

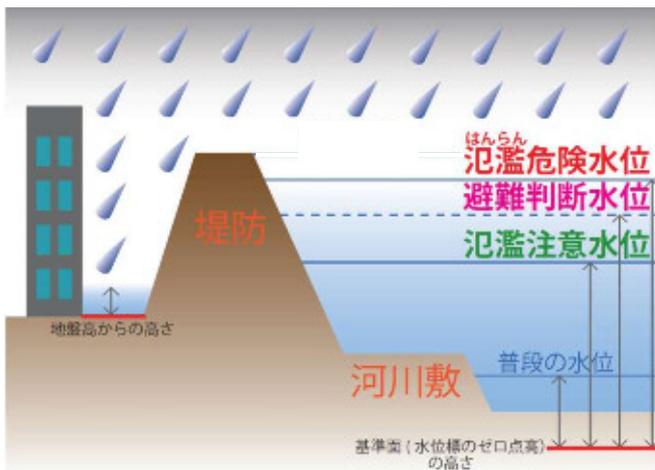
大雨洪水 災害避難カード

①階数・構造	自宅の階数 () 階建 木造・コンクリート造・その他
②避難所の名称と住所	名称 () 所要時間 (車・徒歩 分)
③避難経路から見た洪水の危険度 (避難経路上で水たまりになりやすい箇所)	高い・やや高い・やや低い・低い・なし ()
④堤防が決壊した場合の想定最大浸水深	5m 以上・2m~5m 未満・1m~2m 未満・0.5m~1m 未満・0.5m 未満
⑤洪水時家屋倒壊危険地域*	内・外

*洪水時に家屋倒壊等のおそれがある区域(洪水浸水想定区域図で確認)

■お近くの河川と見るべき水位観測所⑥ ⇒ 川 観測所 または 観測所

■近くの堤防の決壊が懸念されるときに、避難行動の目安となる水位とあなたの行動



⑦水位観測所の水位の目安	避難に関する情報	⑧あなたの行動 (いつ・何をするか?) (記入例)①家族で相談 ②避難所への移動準備 ③近所への声掛け ④避難所へ移動 ⑤自宅の2階へ避難
	レベル5 氾濫発生	
氾濫危険水位 m	レベル4 避難指示	
避難判断水位 m	レベル3 高齢者等 避難	
氾濫注意水位 m	レベル2	

*河川の水位情報と避難に関する情報は必ずしも連動するものではなく、避難情報発令のタイミングはあくまで目安です。

普段の水 観測所 m (水位標のゼロ点高 m)
観測所 m (水位標のゼロ点高 m)

(水位の取得方法)

テレビdボタン	NHK、メーテレの2局から利用可能です
WEB	愛知県・国土交通省の「川の防災情報」から利用可能です。「川の防災情報」で検索
メールサービス	メール(登録先 市)、みずから守る防災情報メール(登録先 愛知県)
ライブカメラ	愛知県・国土交通省の「川の防災情報」から利用可能です。「川の防災情報」で検索

■大雨の時に見るべき雨量観測所について

○家の近くの雨量観測所 ⇒ ()

※家の周辺だけでなく上流部の雨量にも注意してください。

○気象庁の「大雨注意報」は時間雨量 20~30mm が基準となっており、浸水や土砂災害の恐れがあります。

■大雨の時に見るべき気象情報について(雨雲レーダー)

○河川の上流部や中小河川では水位上昇速度が非常に速いことがあるので、雨雲のリアルタイムの状況を、テレビdボタン、Web(気象庁、国土交通省、愛知県など)、スマートフォンのアプリなどで確認しましょう。

■避難行動の留意点

<input type="checkbox"/> 堤防近くにお住まいの方は、堤防が壊れた場合に家屋が倒壊する可能性もありますので早めの避難が必要です。
<input type="checkbox"/> 周りで浸水が始まっている場合や逃げ遅れた場合は、無理に避難せず2階等の安全な場所へ移動してください。(メモ)

(事前に確認しましょう)

■河川水位情報と避難情報の対応

出典：内閣府

避難情報等 (警戒レベル)				河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)	
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等	防災気象情報(警戒レベル相当情報) 浸水の情報(河川) 土砂災害の情報(雨)	
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保	5 相当	氾濫発生情報 大雨特別警報 (土砂災害)
~~~~~ <警戒レベル4までに必ず避難! > ~~~~~					
4	災害の おそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	4 相当	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報
3	災害の おそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難	3 相当	氾濫警戒情報 洪水警報 大雨警報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報	2 相当	氾濫注意情報 ——
1	今後気象状況悪化 のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	1 相当	—— ——

市区町村長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

**氾濫発生情報**：すでに河川が氾濫している状態です。この状況での屋外避難は大変危険です。

**氾濫危険水位**：河川の氾濫の危険がある水位のこと。避難指示の目安となる水位です。

**避難判断水位**：高齢者等避難開始の発令の目安となる水位です。

**氾濫注意水位**：河川の氾濫に対する注意を求める水位のこと。水防団が出動する目安となる水位です。

■水平避難・垂直避難について

○水平避難：指定避難所など浸水リスクの低い場所へ移動をして避難すること。

○垂直避難：自宅等の建物の2階以上へ避難すること。

一般的な住宅(建物)の1階部分の高さが約3mなので、浸水深が3m以上の場合は2階以上であっても浸水するおそれがあります。反対に浸水深が3m未満であれば2階以上は浸水のおそれが低いため、無理に避難所へ避難するよりも建物の2階以上へ避難の方が安全な場合があります。

※雨の降り方によっては、洪水ハザードマップの浸水深以上の浸水が起こる可能性もあります。

